

開講学科	建築学科	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	建築史Ⅰ（近代建築史）	標準対象年次	選択／必修	科目コード		
		2年次	必修	14000801		
担当教員	臼井敬太郎	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	前期	木曜日	4時限	
授業の教育目的・目標	<p>ヨーロッパにおける建築の近代化の様相とその歴史的背景を理解する。</p> <p>① 近代を迎え、ますます複雑・多様化していく社会の要請に対し、建築と建築家はどのように呼応してきたかを理解する。</p> <p>② 近代の先人たちが、どのように建築像を模索し、豊かな空間を実現してきたか、その挑戦と成果、そして今日的意義を学ぶ。</p>					
学科の学修・教育目標との関係	建築設計者・技術者として必要な基礎知識を持っている。					
キーワード	近代、ヨーロッパ、都市、建築					
授業の概要	<p>建築史Ⅰではヨーロッパ近代を対象とする。建築史は、歴史を通覧するだけでなく、現在の建築が直面する諸問題に向き合うための基礎的な素養を育む科目である。現代の建築とダイレクトにつながる近代建築の動向と展開を、ヨーロッパの事例を中心に検討する。そのなかで、社会の要請に対する建築・建築家の解答、先人の挑戦の今日的意義、建築家の果たすべき役割を考える。近代建築の萌芽の見られる18世紀後半から近代建築の概念そのものが問い直される20世紀中盤までを扱う。</p>					
授業の計画	<p>第1回：はじめにー建築史を学ぶこと、近代を学ぶこと</p> <p>第2回：新古典主義までの系譜</p> <p>第3回：新古典主義の展開</p> <p>第4回：新古典主義の建築的特徴</p> <p>第5回：工業化社会と中世への憧れ</p> <p>第6回：中世への回帰とものづくり</p> <p>第7回：都市改造による近代的再編</p> <p>第8回：理想都市による近代的再編</p> <p>第9回：世紀末の建築様式</p> <p>第10回：世紀末の建築と都市</p> <p>第11回：20世紀前衛建築運動の隆盛</p> <p>第12回：20世紀前衛建築運動の挫折</p> <p>第13回：20世紀の住宅建築</p> <p>第14回：20世紀の高層建築</p> <p>第15回：全体のまとめ</p>					
受講条件・関連科目	<p>受講条件：必修科目のため2年次に受講することが望ましい。</p> <p>関連科目：建築史Ⅱ、建築史Ⅲ</p>					
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、スライドを使用し、視覚的に理解できるように配慮する。 ・毎回簡単な小課題を課し、講義内容の理解を深める。 					
テキスト・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書：「ヴィジュアル版西洋建築史 デザインとスタイル」（長尾重武/星和彦 編著、丸善）、「西洋建築様式史」（熊倉洋介他著、美術出版社）、「近代建築史」（石田潤一郎他編著、昭和堂） 					
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・試験（70%） ・中間レポート（30%） 					
履修上の注意						

